

## 下関かるた会

(山口県かるた協会下関支部)



に送られます。そのときに相手が正しい札を取っていたら、さらにもう1枚送られてくるので、3枚の差がついてしまいます。これが終盤の場面で起きると焦りが生じ、一気にその差が縮まったり、逆転されたりします。

競技かるたには、相手を敬う気持ちも重要です。試合ではどちらが札を取ったか、競技をしている人自身で決めるため、お互いを尊重しあう精神がないと競技自体が成り立ちません。

### 読手にも資格があります

札の読み手を「読手」といい、読手には専任、A級、B級という3つの資格があります。A級読手の資格を持つ下関かるた会の久保理生会長に読手として気を付けていることを尋ねました。「句を読む時間や間を一定に保つこと、競技する選手が札を取ることに集中できるように、読み方に変なくせを付けず、通る声ではっきり伝わるように読むこと、寒い時期は風邪を引かないよう体調管理に気を付けることが大切」とのことでした。

レベルが高い選手になると、読手が言葉が発する瞬間の息が漏れ

る音を聞いて反応することもある

### 下関でも競技かるたの普及を

「平成21年の発足当時、会員は10人程度でしたが、毎年少しずつ増えて、昨年、映画『ちはやふる』の公開で一気に6人増えました」と久保会長。下関かるた会には、小学校3年生から50代の大人まで、約30人の会員がいます。五色百人一首(※)などに取り組んでいる一の宮小学校と勝山小学校の児童が多いのが特徴です。

以前、「かるたクイーン」として活躍していた山口県かるた協会の方が、久保先生が勤めていた学校に、競技かるたの講師として来る機会がありました。その方の「競技かるたを下関でも普及させたい」という熱い思いをきっかけに、いろいろな人の協力を得て、勝山公民館で毎週1回の練習会が開かれるようになりました。

他の都道府県に比べて山口県は小・中学生の競技人口が少なく、指導者の育成もなかなか難しいため、下関かるた会の発展がますます期待されています。

※百人一首を20枚ずつ5色に色分けした教育用のかるたで、1試合約3分間で決着がきます。



昨年12月 下関での全国大会



久保会長による参加者への説明



下関かるた会の会員が全国から集まった選手の点呼などを行いました



皆さんも一緒に競技かるたを楽しみませんか？  
☞山口県かるた協会ホームページ  
[http://shimonoseki.main.jp/yamaguchi\\_karuta/index.html](http://shimonoseki.main.jp/yamaguchi_karuta/index.html)



練習で読手を務める久保会長



練習でも本番さながらの迫力！  
読手の声に瞬間的に反応します



勝山公民館で練習に励む会員の皆さん